



学校だより

令和3年9月1日

9月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「パラリンピック」

校長 住田 昌治

1964年の東京オリンピックが開催された時、私は小学校一年生でした。それまで自宅にテレビはなかったのですが、「オリンピックをテレビで応援しよう!」ということで、父がテレビを購入してきたことを覚えています。テレビも今とは違って、白黒で14インチの小さい画面でした。当時はブラウン管でしたから、スイッチをいれてもすぐには映りません。それでも、自宅にテレビがあって、オリンピックを観戦できることは大変うれしいことでした。それから57年経った今年の東京オリンピック、同じようにテレビ観戦したわけですが、カラーテレビで、大きな画面、スイッチを入れればすぐに映る、色彩も鮮やかで時の流れを感じる日々でした。

さて、現在パラリンピックが行われていますが、1964年にも東京で第2回パラリンピックが開かれていたことは知りませんでした。今では、「オリンピック・パラリンピック」として取り上げられ、パラスポーツへの認知度も高まっています。メディアにも取り上げられることも増えたので、実際にやってみたり、応援したりする人も増えてきました。そんな中、ふと目に留まる言葉があります。「パラリンピックをなくしたい」これは、作家でタレントの乙武洋匡氏の言葉です。どんな思いが込められているのでしょうか。

パッと見ると、「なんてひどいことを言うんだ」と思われるかもしれませんが、しかし、よく聞いてみると、「オリンピックとパラリンピックを統合して、いつかは1つの大会にしていきたいと思っているんです」と。「健常者の部、義足の部、車いすの部、視覚障害の部というように部門を分けて、同じ大会にするということは可能だと思うし、むしろ、そっちのほうが自然だと思う」とも言われています。もともと、成り立ちが違うので、これまで分かれてやってきたのは仕方ないことですが、「多様性と共生の時代」と言うのなら、分断ではなく統合していった方がいいという提言なのです。

社会が激変していく中で、考え方や行動も変えていかないと、今まで通りでは目的と合わなくなっていくことがあります。何のためにやっているのか目的を明確にして、変革していかなければならないことを乙武さんの提言から学びました。

授業が再開しました。新型コロナウイルス感染者が激増する中、学校では子どもの安全を優先しながら粛々と教育活動を進めていきます。なお、最近、報道先行で様々な情報が流れています。正式な通知を受けて、正確な情報は学校から保護者の皆様にお伝えしますので、メールや文書等をご確認ください。気になることや、お聞きになりたいことがありましたら校長までお問い合わせください。